

令和4年6月16日(木)、福祉系大学経営者協議会 令和4年度第1回総会をオンラインで開催し、22校37名にご出席いただきました。また、第1部の話題提供には、総会出席者以外にも7大学13名にご出席いただきました。

冒頭、丸山悟会長(日本福祉大学 理事長)より、「本日、多くの方に参加いただき、社会福祉士国家試験の在り方について、強い問題意識や関心を持たれている状況が反映されているように感じている。国家試験の在り方問題や子ども家庭福祉分野のソーシャルワーカーの新資格問題への対応においては、私立大学や公立大学といった設置主体の違いを超えて共同歩調を取っていく必要がある。本協議会は、ソーシャルワーク及び各分野のソーシャルワーカーの魅力発信とともに、社会から寄せられる期待に応えられる人材の養成教育やその在り方の観点からも、行動力や組織力を高めながら関係大学を牽引する役割を担っていかねばならない。本日は、国の政策動向などについて大いに学び、今後の取り組みの重点等について、様々な側面から積極的に意見交換をしていきたい」との開会挨拶がなされました。

※「第1部 話題提供」・「第2部 総会」の進行は丸山悟会長、「第3部 会員校の情報交換」の進行は江端源治副会長(関西福祉科学大学 理事長・学園長)が務めました。

## ■第1部 話題提供■

今年1月に公表された「社会福祉士国家試験の在り方に関する検討会」の答申や厚生労働省社会・援護局長から試験センター理事長宛に出された文書等を踏まえた社会福祉士国家試験の在り方について、法政大学 常務理事・副学長 岩崎晋也 氏(社会福祉士国家試験の在り方に関する検討会 座長)に講演いただき、意見交換を行いました。

## ■第2部 総会■

令和3年度事業報告・決算、令和4年度事業計画・予算について審議しました。令和3年度事業報告、令和4年度事業計画は、当サイトよりご覧ください。

## ■第3部 会員校の情報交換■

出席校の近況(周年事業、学部・学科改組やプログラム改革、学生募集状況、国家試験の結果等)について情報交換を行いました。

最後に、長谷川匡俊副会長(学校法人大乗淑徳学園 理事長)が、「本日、会員校の情報交換を通して、それぞれの大学が厳しい現実を抱えながらご苦心されている様子も伺われ、決して苦しんでいるのは自分の大学だけではないのだと、改めて同志的な結合という意味合いを含めて、福経協の存在意義を確認することができた。社会福祉士の国家試験の在り方が大きく変化していく中で、質的・量的拡大を目指す方向性が示されたことを、福経協会員校にとっての追い風にできればと思う。また、子ども家庭福祉関係の新資格が、当面は社会福祉士をベースに上乘せ型として認定資格でいくことになったのも、ソ教連や福経協のソーシャルアクションが意味を持ったのではないかと。やはりこれからの時代、横に結んで力を合わせていかなければ何事も進んでいかないことを実感したところである。本日は熱心にご参加いただいた皆様に心からお礼申し上げます」とのまとめの挨拶がなされ、閉会しました。